不二製油グループの 価値創造

不二製油グループは創業当初から、植物性素材にこだわり、技術を深め、顧客や消費者の困りごとを解決する素材を提供してきました。これまで創出してきた価値に加え、持続可能な社会に貢献できる価値の創造を目指しています。

ビジョン

植物性素材でおいしさと健康を追求し、
サステナブルな食の未来を共創します。

ビジョン達成に向けやるべきこと	2030年目標
革新的な植物性素材を創出し、高収益な事業ポートフォリオを形成している	• ROE 10% • ROIC 8%
食のバリューチェーン上で社会課題解決に挑戦・貢献し、社会価値を創造している	• サステナブル調達コミットメント達成 • 環境ビジョン2030達成
人材育成と企業風土改革	• グローバルに多彩な人材が活き活きと挑戦と革新に取り組み、一丸となって成長を続けている

これまでの価値

不二製油グループは、南方系油脂を主原料とした植物性油脂事業、大豆たん白を主原料とした大豆加工素材事業を祖業としています。さらに、製品の加工度を高めることで提供価値の最大化を目指し、業務用チョコレート事業と乳化・発酵素材事業を発展させてきました。これまで顧客や消費者の困りごとを解決する製品を提供してきた基盤には、それらの主要4事業を軸にした当社グループ固有の事業ポートフォリオがあります。各国の経済成長に伴い、物質的な豊かさが求められる中、新たな価値を持つ新素材を作り上げることで、顧客の最終商品のおいしさやさまざまな機能性の付与、品質の向上を実現し、食文化の発展や変容に貢献してきました。

これからの価値

世界では、持続可能な社会構築に向けた課題認識の高まりや食と健康の一体化が進み、心と体の「健康」に「おいしさ」が伴う、「おいしさと健康」の両立が求められるようになっています。また、その食が「サステナブルな食のバリューチェーン」で生み出されることも消費者価値の一つとなりつつあります。当社グループは、植物性素材でこれらの価値を提供し、消費者の食の選択肢をひろげていきます。

不二製油グループのBuisiness ⇨ P6

加工度を高めることによる事業の展開

顧客価値の最大化

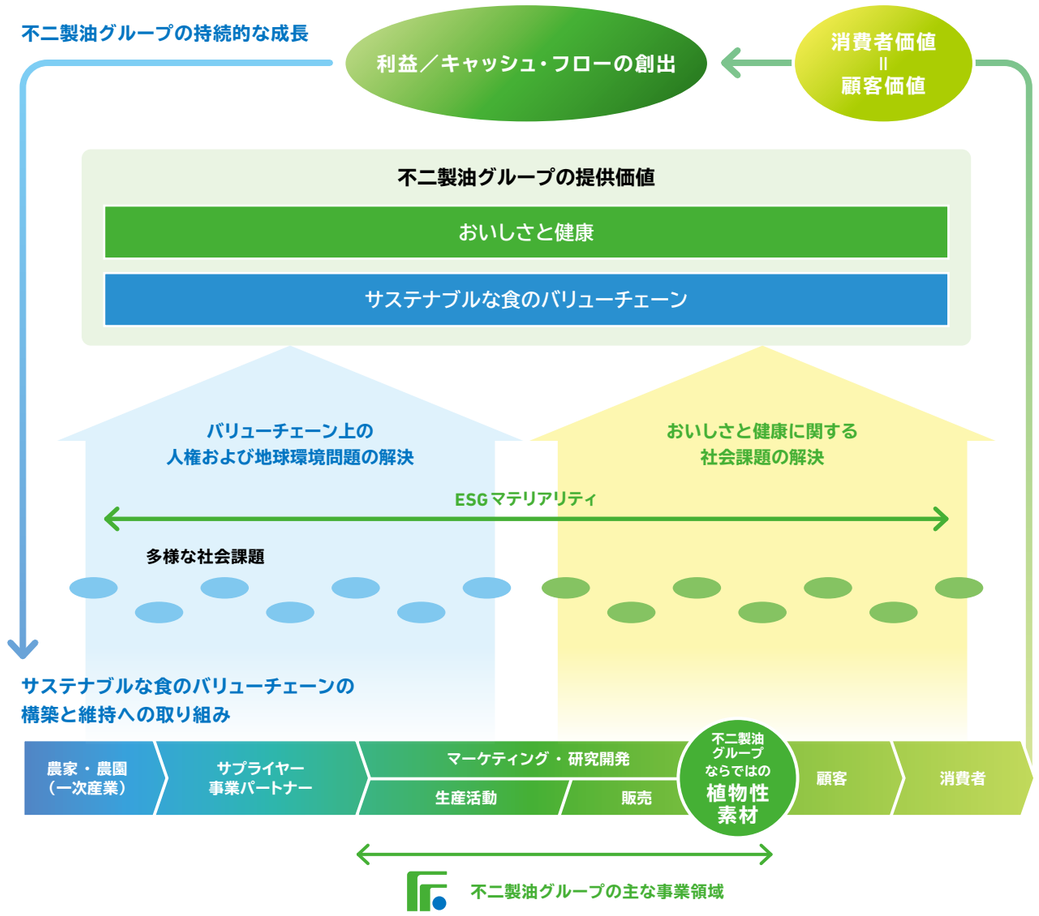
おいしさ	利便性
食の多様性	機能性

＋

おいしさと健康

サステナブルな食のバリューチェーン

価値創造モデル



不二製油グループは、食のバリューチェーンの川中の機能を担い、研究開発や生産活動を通して当社グループならではの植物性素材を製造・販売しています。

この機能を果たす中で、地球環境問題・人権・心身の健康などバリューチェーン上の社会課題を機敏に捉え、全てのステークホルダーの期待に応えるソリューションの提供に努めています。

そして、当社グループの持続的な成長を果たすとともに、消費者の食の選択肢をひろげ、サステナブルな食の未来を共創していく、価値創造の循環を目指しています。

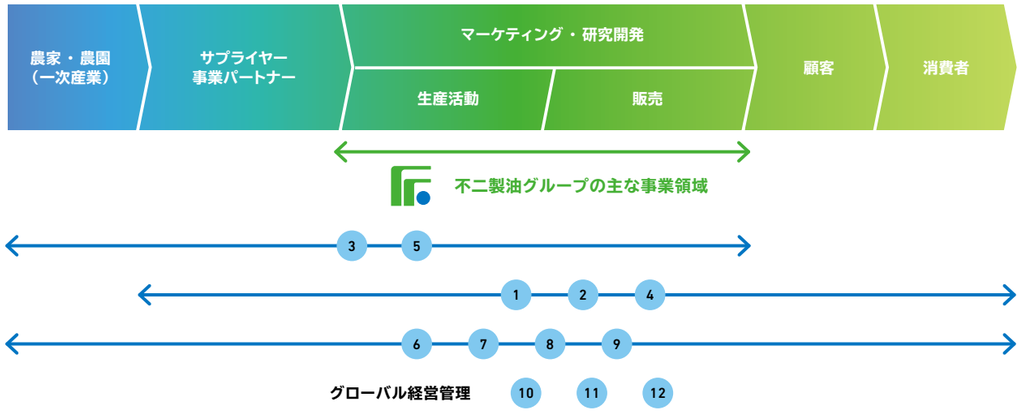
バリューチェーン上のESGマテリアリティの特定

ESGマテリアリティ

⇨ P27

1. サステナブルな食資源の創造
2. 健康と栄養
3. サステナブル調達
4. 製品の安全性と品質
5. 労働安全衛生
6. 気候変動
7. 水資源
8. サーキュラーエコノミー
9. 生物多様性
10. DE&I（ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン）
11. 人材確保・育成
12. ガバナンス・リスク・コンプライアンス（GRC）

ESGマテリアリティにおける取り組みの主な対象範囲

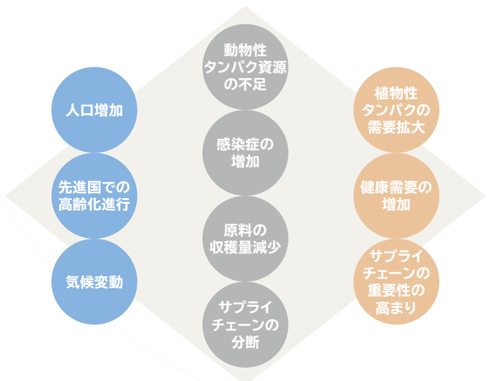


事業機会獲得に向けた取り組み

事業活動を通じたバリューチェーン上の社会課題解決に向け、経営戦略の立案・推進のためにESGマテリアリティを活用しています。例えば、将来懸念される食資源やタンパク質の不足に対して、おいしさと健康にこだわった植物性素材を創出し、サステナブルな食資源の創造に注力しています。高齢化や生活習慣病など心身の課題解決に向け、健康と栄養に寄与する研究および製品開発を進めています。また、主原料および戦略原料であるパーム油・カカオ・大豆・シアカーネルのサステナブル調達の推進により、サプライヤーや顧客との信頼関係を構築し、ステークホルダーの皆様から選ばれる原料メーカーとしての成長を目指します。

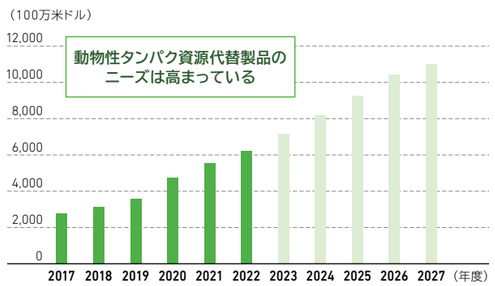
挑戦領域 ⇨ P60
R&D ⇨ P77

社会構造の変化



プラントベースフードのニーズの高まり

世界の肉および海産物代替品の販売金額



出典：Euromonitor International 2023
：Processed Meat, Seafood and Alternatives to Meat

“共創”による価値創造

食が消費者の口に届くまでには、複雑なサプライチェーンと多くのステークホルダーが関与しています。人権・環境などの社会課題は一社のみで解決できるものではなく、消費者も含めたバリューチェーン全体での取り組みが不可欠です。

不二製油グループはバリューチェーンの川中に位置する存在として、さまざまなステークホルダーとの共創を進めます。上流・下流双方へのエンゲージメントを強化し、当社ならではの植物性素材により「おいしさと健康」「サステナブルな食のバリューチェーン」という価値を提供し、消費者の食の選択肢をひろげていきます。

これらの取り組みを通じて当社製品の付加価値や競争優位性を高めると同時に事業活動のコストダウンにもつなげ、社会価値と当社グループの企業価値をともに向上させていきます。

ステークホルダーとの共創

Message

NPO
Earthworm Foundation
Regional Director–
Malaysia, Thailand, Vietnam, India and China

Karl Yen Quek

サプライチェーンの価値を解き放つ

不二製油グループとEarthworm Foundationは、2016年よりパーム油のサプライチェーンにおける環境と社会の課題解決に向けた取り組みを続けています。マレーシアとインドネシアの2つのランドスケーププログラムにおいて、不二製油グループの協力は幅広い範囲に及んでいます。マレーシアでは、グリーバンスメカニズムの開発と議論を通じて、上流のサプライヤーの労働環境の改善に努めています。また、不二製油グループはパーム果房（FFB）調達においてFFBディーラーを含む農園までのトレーサビリティの改善に取り組み、MPOB*1と協力して関連データの収集・改善を進めています。並行して、労働環境改善プログラム（LTP）を通じて、社会課題を軽減するためのサプライヤーエンゲージメントに引き続き取り組んでいます。インドネシアでは、アチェ地域に焦点を当て、ISPO*2認証やサステナビリティ方針、景観におけるHCV*3の特定と保護について、企業や小規模農家の能力開発を支援しています。私たちは、不二製油グループとともに変革を実現していけることを楽しみにしています。

*1 MPOB：Malaysian Palm Oil Board　*2 ISPO：Indonesian Sustainable Palm Oil　*3 HCV：High Conservation Value

Message

有楽製菓株式会社
経営品質部
係長

牧 宏郎

商品を通じて子どもの幸せを考えるきっかけに

手軽に購入できるお菓子を通じて多くのお客様にカカオ豆が抱える問題点を考えるきっかけづくりとして「スマイルカカオプロジェクト」を実施しています。当社商品ブラックサンダーは2022年9月より使用しているカカオ原料を全て児童労働に配慮されたものに切り替えました。このプロジェクトでは不二製油のサステナブル・オリジン*を適用した原料を使用しています。

このプロジェクトでは、当社がカカオ原料を含む原料を購入する際にプレミアムをお支払いし、その購入先において農地への還元活動を行っており、2025年までに当社商品に使用する全てのカカオ原料を切り替える予定です。不二製油との共創を通じて、児童労働ゼロを目指し、取り組みを進めていきます。

* 不二製油グループ独自のサステナビリティ支援プログラム

サステナブル・オリジン・プログラム ⇨ P53

ビジョン実現に向けた従業員との共創

ビジョンの達成に向けた想いを持ったグループ従業員が、それぞれの地域、それぞれの職務領域で活躍しています。

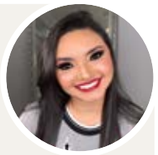
研究開発

Better-For-You チョコレートの開発

ブラマー
R&D
Margaret Crance

私は、低糖や無糖で健康的なBetter-For-You製品の研究開発をしています。砂糖の代わりになる素材の探索は簡単ではありませんが、挑戦できることに喜びを感じています。私が開発した製品が、従来のチョコレートに代わる健康的な食品として人々に楽しんでもらえることを光栄に思います。今後も栄養とおいしさを両立したソリューションで、人々の健康に貢献できるような製品を開発していきたいと考えています。

品質保証



社会課題に向き合ったプラントベースチョコレートの開発

ハラルド
Quality Assurance
Ariane Melo

ハラルドは、高まる植物性食品のニーズに対して常に革新的に取り組み、独自の製品を生み出しています。プラントベースチョコレートの開発では、牛乳を使用せずクリーミーな味わいとなる原料の選定にこだわり、グループのサステナビリティ戦略に沿った安全で高品質な製品を作ることができました。お客様の期待やニーズに応え、グローバルな社会課題に向き合ったこのプロジェクトは、私たちがプロフェッショナルとして成長するためにも非常に重要なものでした。

物流

物流クライシスを乗り切るために

不二製油（株）
購買物流部門
物流部
直井 康寛

物流業界では、ドライバー不足が加速し2030年には国内需要の約35%の荷物が運べなくなるといわれています。不二製油グループでも、現在の物流体制では、労働力不足による輸入貨物受け入れ遅延などが発生し得るため、改善が急務です。持続可能な物流体制確立に向けて、納入時間指定、付帯作業・待機時間削減、受注統制、パレット統一、輸入貨物の受け入れ先分散、積載率向上、パートナー再選定などを行い、コストの上昇抑制と削減にも取り組みます。

研究

技術×素材で皆を健康にしたい

不二製油グループ
本社
未来創造研究所
新素材創出グループ
市瀬 嵩志

私たちは、人々の健康・ウェルビーイング向上を目指し、独自技術で開発されたペプチドや高い酸化安定性を付与したDHA・EPA油脂（プロレア®）などの健康機能を研究しています。いつまでも健やかに過ごすには、若い時からの予防・行動が重要だと考えます。食を通じた健康寿命の延伸により、皆が笑って幸せに暮らせる社会の実現を目指し、不二製油グループの技術と素材を活用して研究開発を行っていきます！

業務改善

持続可能な生産のための継続的な改善

フジオイル ヨーロッパ
Continuous Improvement
Bram Pâquet

気候変動やCO_2排出量削減には、部門を越えた取り組みが必要です。コミュニケーション部では、環境問題に関する情報発信を社内外に行っています。生産部門はエネルギー削減を念頭に置いて生産工程の各種要因を熱分析などで継続的に分析します。より効率的にエネルギーを使用できる手法を見出した場合、エンジニアチームはそれに合わせてシステムを調整します。持続可能な生産活動は、協力と継続的な努力の結果です。私たちは、このような取り組みを通じて、地球環境にも従業員にもやさしい社会づくりに貢献します。

生産

省エネ生産で明るく元気な将来へ

不二製油（株）
油脂事業部門
油脂生産部
金田 信弥

私は油脂の生産・管理業務を務めており、安全で環境に配慮した運営を心掛けています。油脂の精製は、特に電気や蒸気の消費量が多く、環境に与える影響が大きいため、大小にかかわらず省エネにつながる改善にとことん注力しています。SDGsを意識した活動を推進することで、不二製油グループの発展だけでなく、さまざまなステークホルダーや子どもたちの未来に貢献したいと考えています。

営業

コンビニエンスストアにおけるサステナブルな食の未来

不二製油（株）
営業部門 営業第二部
松田 みなみ

私は、コンビニエンスストアに向けてサステナブル原料を用いた製品の提案営業をしています。担当先のコンビニエンスストアは、サステナブルな原材料の調達を目標に掲げていますが、その必要性を最終消費者やメーカーに実感してもらうための提案方法や販売方法に、日々頭を悩ませています。そのような中、私の仕事は、担当先と共通の目標、サステナブルな食の未来に向かってともに進んでいくことのできる重要なものだと感じています。

ビジョン

植物性素材で
おいしさと
健康を追求し、
サステナブルな
食の未来を
共創します。

サプライチェーンマネジメント

サプライヤーエンゲージメントによる責任ある調達

フジオイル アジア
Supply Chain Management
Hu Ning Shing

不二製油グループは、責任あるパーム油のサステナブル調達を重視しています。NDPE（森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ）ポリシーを支持し、サプライチェーンで森林破壊や強制労働がないことを約束しています。サプライヤーと連携を強め、方針を共有し、環境や社会に与えるネガティブインパクトの最小化に向けて取り組んでいます。サプライヤーとの共創を通じて、サステナブルな未来に貢献できると信じています。

サステナビリティ経営

「ESGマテリアリティ」の詳細については、サステナビリティレポートをご参照ください。
社会インパクトとESGマテリアリティ ⇨ https://www.fujioilholdings.com/sustainability/materiality/

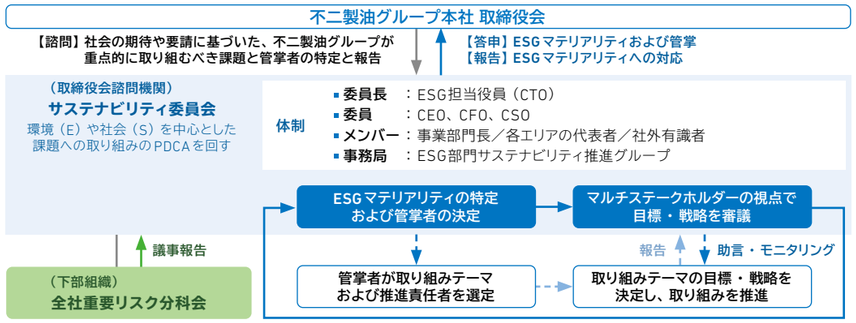
サステナビリティ委員会

ESG担当役員が、取締役会と連携しながら全社を統括し、全従業員によるサステナビリティ経営を推進しています。

取締役会の諮問機関としてサステナビリティ委員会を設置しています。ESG担当役員を委員長とし、議決権を持つCxO（Chief X Officer）に加えて、事業部門長および各エリアの代表者、社外有識者で構成されています。

同委員会では、中長期的な環境（E）・社会（S）と企業経営双方の持続可能性の観点から、ESGマテリアリティの策定ならびに取り組みテーマの目標・戦略について、マルチステークホルダーの視点で審議・監督し、取締役会へ答申しています。取締役会は同委員会からの答申を受け、指導・承認・監督するとともに、中長期のグループの方向性を決定しています。

<サステナビリティ委員会の機能>



2022年度（2回開催）審議・監督、取締役会への答申事項

- ESG委員会からサステナビリティ委員会への名称変更
- 2021年度ESG取り組みテーマ活動実績の確認
- 2022年度ESG取り組みテーマおよび活動計画の決定
- 2022年度ESG取り組みテーマの中間報告
- 2023年度ESGマテリアリティの決定

ESGマテリアリティ

不二製油グループのバリューチェーン上の「サステナビリティ関連のリスクおよび機会」に関わる重点課題として、「ESGマテリアリティ」を定めています。事業活動を通じた「ESGマテリアリティ」への取り組みにより、「ポジティブ・インパクトの創出」あるいは「ネガティブ・インパクトの低減」に寄与します。ESGマテリアリティは、新たな社会課題の把握とステークホルダーからの助言に基づき年に1度レビューを行い、特定しています。特定されたマテリアリティは管掌者（CxOおよび担当部門役員、担当部門長）のもと、具体的な目標や対応施策、推進責任者を定め、取り組みを推進しています。

2023年度 ESGマテリアリティ特定プロセス

ステークホルダーからのアドバイス（例）
健康的な食の提供や腐敗防止の取り組みは社会的重要課題

⇨ **STEP 1** 評価対象となる包括的な社会課題リストの作成

⇨ **STEP 2** マテリアリティマップを使った評価

⇨ **STEP 3** サステナビリティ委員会での審議

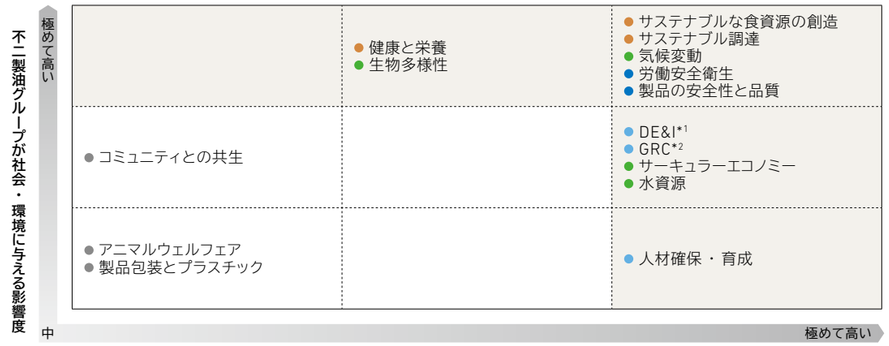
⇨ **STEP 4** 取締役会での承認

2023年度ESGマテリアリティは、GRI（Global Reporting Initiative）スタンダード2021ならびにESRS（European Sustainability Reporting Standards）等を参考に、以下の観点で更新しました。

- ESGマテリアリティマップの縦横軸のレベルを“中”～“極めて高い”へ変更
- ESGマテリアリティマップ「不二製油グループが社会・環境に与える影響度」を、正／負の影響の規模や範囲・深刻度・発生可能性から総合評価
- ESGマテリアリティマップ縦横軸いずれかの影響度が“極めて高い”社会課題をESGマテリアリティと特定
- 新規ESGマテリアリティとして「人材確保・育成」を追加
- ESGマテリアリティカテゴリーを「価値創造」「安全・品質」「環境」「経営基盤」の4つに分類

2023年度 ESGマテリアリティマップ

● 価値創造　● 環境　● 安全・品質　● 経営基盤



*1 ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン
*2 ガバナンス・リスク・コンプライアンス。GRCにはコーポレートガバナンスと内部統制の観点が含まれますが、サステナビリティ委員会においては内部統制に関わる項目をモニタリングしており、コーポレートガバナンスは取締役会にてモニタリングしています。

2023年度ESGマテリアリティ

ESGマテリアリティ	取り組みテーマ	管掌者	特に貢献を目指すSDGs	目指す姿	2022年度実績
● 価値創造					
サステナブルな食資源の創造	植物性タンパク資源の創造	CTO		植物性タンパクが広く浸透し、当たり前に入手できる社会を実現することで、食の選択肢を増やし、食糧問題をはじめとする社会課題解決に貢献する	・風味および畜肉様繊維感や口どけ感にこだわった大豆ミート素材2製品を上市 ・植物性素材で畜肉や乳、卵の代替を可能とした加工食品（総菜、ラーメンスープ、菓子等）10製品を上市
健康と栄養	高齢者の心身の健康課題の解消	CTO		超高齢化社会の先頭を走る日本において、シニアが生きがいを持ってより良く生き続けられる社会の構築。食素材開発や健康エコシステムの構築により「見える化」を進めることで、シニアの健康課題を予防し、ウェルビーイングの実現に貢献	・島根大学協業でヒト試験実施。安定化DHA・EPA摂取により、バイオマーカーに特徴的な変化を確認 ・安定化DHA・EPAの単回摂取で血中DHA濃度の有意な上昇を確認 ・健康エコシステム構築に関して自治体連携に向け、取り組み計画書作成。産官連携では公共性の担保が課題となり実施に至らず
	糖質低減	CTO		食品の糖質の一部を植物性タンパク素材で代替し、生活習慣病の予防に資する栄養バランスに優れた食品の提供	・米飯や麺の低糖質化／高タンパク化を可能とする大豆たん白素材を開発し、健康志向の商品11件に採用 ・おいしさや満足感をアップさせる無糖飲料の処方を確立し、顧客に提案
	トランス脂肪酸含有量の低減	CSO		WHO指針および各国での法規制に基づいた、トランス脂肪酸摂取量が総エネルギー摂取量の1%以上である地域における、製品中のトランス脂肪酸含有量の低減	海外の対象グループ会社14社のうち11社で低トランス脂肪酸製品への変更が完了（2023年3月時点）
サステナブル調達	パーム油のサステナブル調達	CSO		・サプライチェーン上におけるNDPE（森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ）の達成 ・2030年までに農園までのトレーサビリティ（TTP）100% ・2030年までに全直接サプライヤーに労働環境改善プログラム（LTP*1）を適用	・TTM：100% ・TTP：93% ・衛星画像を用いた常時モニタリングを継続 ・パルマジュ エディブル オイル（マレーシア）のサプライヤーへの労働環境改善プログラムの適用：61%
	カカオのサステナブル調達	CSO		・2030年までに児童労働撤廃 ・2025年までにILOの定める「最悪の形態の児童労働（WFCL）」ゼロ ・農家の生活環境改善 ・森林破壊の防止と森林の保全：2030年までにカカオ栽培地域に対して100万本植樹	・不二製油グループのカカオ豆直接調達農家の89%についてGPSマッピングを実施（コートジボワール、ガーナ、エクアドル） ・ガーナでの支援プログラム： 　・対象農家のGPSマッピング実施 　・対象農家のCLMRSによるモニタリング実施 ・GAP*2トレーニングプログラムに30,846名の農家が参加（コートジボワール、ガーナ、エクアドル） ・100万本植樹活動継続のためのパートナー選定完了 ・植樹6万本実施
	大豆のサステナブル調達	CSO		・サプライチェーン上における森林破壊ゼロ、搾取ゼロ、コンプライアンスの遵守 ・2030年までにコミュニティレベルまでの、2025年までに第一次集荷場所までのトレーサビリティ確保、またはRTRS*3認証品もしくはRTRS認証に準じたその他認証品での調達率：100%	・トレーサビリティ 70% ・サプライヤーへのセルフアセスメントを完了 ・2023年度に向けた改善計画を策定
	シアカーネルのサステナブル調達	CSO		・森林破壊防止と緑地の保護：2030年まで毎年6,000本植樹 ・地域レベルまでのトレーサビリティ：2030年までに75%、2025年までに50% ・Tebma-Kandu協同組合からのシアカーネル直接調達比率：2030年までに50%、2025年までに30% ・地域価値の創造：フジ オイル ガーナの正規雇用社員数50%増加（2017年比）	・植樹6,107本／年 ・Tebma-Kandu協同組合からのシアカーネル直接調達比率：3.4% ・フジ オイル ガーナ正規雇用従業員数：60%増加（2017年比）

*1 LTP：Labour Transformation Programme
*2 GAP：Good Agricultural Practices（農業生産工程管理）
*3 RTRS：Round Table on Responsible Soy Association（責任ある大豆に関する円卓会議）

サステナビリティ経営

ESG マテリアリティ	取り組みテーマ	管掌者	特に貢献を目指すSDGs	目指す姿	2022年度実績
● 環境					
気候変動	CO_2の排出削減	ESG部門長		<環境ビジョン2030> 2030年にCO_2排出量（総量）をスコープ1＋2で40%削減、スコープ3（カテゴリ1）で18%削減（基準年2016年） 注：SBT認定取得	・スコープ1＋2総量：26%削減（基準年2016年） ・スコープ3（カテゴリ1）：12%増加（基準年2016年）
気候変動	環境に配慮したものづくり	CTO		脱ケミカルやCCU（CO_2の有効利用）などの技術開発による自社バリューチェーン上の地球環境負荷の低減	・従来技術より化学物質の使用量を削減できる「酵素法」を用いた新規油脂加工技術を確立 ・佐賀市、国立大学法人佐賀大学、伊藤忠エネクス（株）と連携し、清掃工場で発生するCO_2と排熱を活用した大豆植物工場の開発に着手 ・育種による新規油脂原料の実用化に向け成分の一部が製品品質に影響を及ぼす事を確認
水資源	水使用量の削減	ESG部門長		<環境ビジョン2030> 2030年に水使用量原単位を20%削減（基準年2016年）	27%削減（基準年2016年）
サーキュラーエコノミー	廃棄物の削減	ESG部門長		<環境ビジョン2030> 2030年に廃棄物量原単位を10%削減（基準年2016年）	4.7%削減（基準年2016年）
サーキュラーエコノミー	フードロスの削減とアップサイクル	CTO		技術イノベーションならびに副産物の再利用を通じたバリューチェーン上のフードロスおよび廃棄物削減	・日持ちや経時変化耐性等技術を確立、7製品を上市 ・水溶性えんどう多糖類に、酸性植物タンパク飲料の安定剤としての有効性を確認
生物多様性	生物多様性の保全と回復	ESG部門長		ネイチャーポジティブなバリューチェーンの構築	不二製油グループ生物多様性方針を制定および公表
● 安全・品質					
製品の安全性と品質	製品安全と品質の徹底	ESG部門長		製造される全ての製品において、自社が原因となるクレームゼロ	重大クレーム0件
労働安全衛生	労働安全衛生の推進	ESG部門長		人間尊重および安全第一を最優先とし、「安全で快適な職場」づくりによって全グループ会社で災害ゼロ	・重大災害1件、重大物的事故0件 ・フジ ベジタブル オイル（米国）において1名の死亡事故が発生
● 経営基盤					
DE&I*1	DE&Iの実践	人事・総務部門長		・不利な状況にある人が感じるバリアーを取り除き、公正な機会の提供と評価（エクイティ） ・従業員全員の帰属意識を高める企業文化の醸成（インクルージョン） ・多様性が生み出すビジネスモデルと価値の創出（ダイバーシティ）	**<グループ全体>** ・経営会議メンバーの多様性（外国人、女性）比率の上昇（2023年4月1日時点45%） ・次世代経営層候補者をグループ全体より選抜、人材プールを拡大 ・日本エリアからトレーニー 2名を海外へ派遣 **<グループ各社>** ・下記ページおよびサステナビリティレポート2023を参照 **DE&I ⇨ P68**
人材確保・育成	人材確保・育成	人事・総務部門長		・国内外の環境変化に対応し、シェア維持・拡大の実現に貢献している人材が多数在籍しており、各分野において専門性の高い人材が現状よりも増加している状態 ・主要役職（役員・部長・課長）の後任候補がスタンバイできている状態	2022年度ESGマテリアリティとして該当なし
GRC*2	リスクマネジメントシステム	ESG部門長		・リスクに強く、社会からの信頼を獲得する高信頼性企業の実現	・全社重要リスク分科会においてリスクに関する全社議論を実施（4回開催） ・各エリアの統括会社・グループ会社にて新ツールを使用したリスクアセスメントならびにその結果に基づくリスクマネジメント会議を実施 ・有価証券報告書における2023年度TCFD情報開示の変更点に関する最新情報を収集 ・全社重要リスク分科会において議論し、情報開示内容に客観性・妥当性を付与 ・TNFD最新情報を収集して当社グループ事業に関連する生物多様性課題を洗い出し、それらが当社グループ事業へ与える影響度の定性評価を実施
GRC*2	情報セキュリティマネジメント	CFO		・ICT（情報通信技術）によるプロセス改革と企業価値創出 ・安全・安心なICT活用によるグループガバナンス実現への貢献	・重篤なセキュリティインシデントの発生0件 ・サイバーリスク動向に追随すべく情報セキュリティ規程を改訂し、改訂後の規程内容に従い各社の対策状況を実地評価（計5社）
GRC*2	コンプライアンスの強化	法務部門長		公正かつ透明性を持った事業活動を行い、全てのステークホルダーから信頼される誠実な企業	・不二製油グループの事業運営に関わる重大な法令違反は0件 ・グループ各社においてカルテルリスクに関するリスクアセスメントおよび高リスク評価拠点における関係者ヒアリングを実施。同結果を踏まえた対応施策を導入 ・アンケート「ビジネスとコンプライアンスが対立した場合にコンプライアンスを優先する風土があるか」に対する肯定回答率は93.2%（前年比2.6%増加）
GRC*2	グループガバナンスの向上	CSO		有効なグループガバナンス体制の構築を通じた企業価値の向上	・グループ憲法の浸透を図る前段として、2023年4月に全グループ会社に対してビジョン刷新についての案内を実施。ビジョン刷新に際しては経営層へのヒアリングから開始し、グループ本社経営会議での2回の審議を経て取締役会で決議 ・監査等委員会設置会社へ移行し、経営執行状況のモニタリングを中心とした取締役会運営を実施
GRC*2	コーポレートガバナンスの向上	CSO		取締役会の適正な運用を通じた企業価値の向上	監査等委員会設置会社への移行による経営の監督（モニタリング）を中心とした取締役会運営

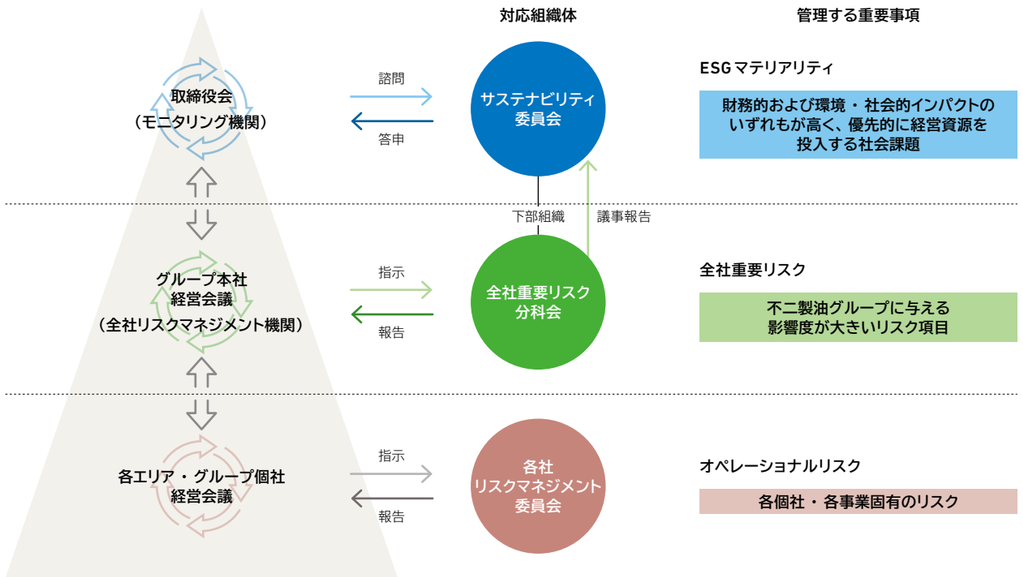
*1 DE&I：ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン。公正な機会提供や評価とインクルーシブなマネジメントによる多様な人材の活用
*2 GRC：ガバナンス・リスク・コンプライアンス

リスクマネジメント

不二製油グループは、日本・米州・欧州・東南アジア・中国の各エリアにおいて、植物性油脂、業務用チョコレート、乳化・発酵素材、大豆加工素材の4つのセグメントで事業展開していることから、当社グループのバリューチェーンには社会課題・経済環境変化などの影響を受け、さまざまなリスクが潜在しています。それらのリスクに対して、当社グループは経営会議を全社リスクマネジメント機関と位置付け、経営陣の認識リスク（戦略上のリスク、財務リスク）、ESGマテリアリティマップ、オペレーショナルリスクなど、グループを取り巻く環境を踏まえた情報ソースから、経営への影響度、発生可能性、顕在化時期などの総合的な判断により、全社重要リスクを選定し、その対応策の立案、実施、進捗確認、評価・改善などリスクを管理する全社リスクマネジメント体制を構築しています。

不二製油グループのリスクマネジメント体制

全社リスクマネジメント体制



■ サステナビリティ委員会とESGマテリアリティ

グループ全体でのサステナビリティ推進およびその監督の観点から、不二製油グループ本社取締役会の諮問機関としてサステナビリティ委員会を設置しています。中長期およびマルチステークホルダーの視点で「ESGマテリアリティ」を特定ならびに全社・事業横断的取り組みの方向性と目標・KPIを決定し、テーマの進捗をモニタリングしています。「ESGマテリアリティ」は、「不二製油グループが社会・環境に与える影響度」と「社会・環境課題が不二製油グループに与える影響度」の2つの観点から社会課題の重要度を分析し、優先度の高いものを特定しています。

■ 全社重要リスク分科会と全社重要リスク

中長期的なグループの方向性に沿った事業戦略の遂行にあたり、当社グループに重大な影響を及ぼすと認識するリスク項目を全社重要リスクとして特定し、リスク低減を推進しています。全社重要リスクは、2022年度よりサステナビリティ委員会の下部組織として設置した全社重要リスク分科会にて、メンバーの多様な視点により、リスク案の検討や対応策の適切性評価・確認等を行い、さらなる企業価値毀損リスクの低減を目指しています。

■ オペレーショナルリスク

当社は各グループ会社内にリスクマネジメント委員会を設置しており、「リスクアセスメント→リスク対応→自己チェック→レベルアップ（次年度計画立案）」のPDCAを回し、不二製油グループ本社、各エリアの統括会社、各グループ会社間で連携を取りながらオペレーショナルリスクを特定し対応しています。リスクアセスメントでは、自社のリスクを可能な限り洗い出し、リスクマップ（縦軸：自社への損失・影響度、横軸：発生可能性）により評価の上、自社にとって損失・影響度が大きいリスクを「重要リスク」として特定しています。全ての「重要リスク」に対して対応方法を決定し、リスク低減を図っています。

全社重要リスク

❶ リスクの特定

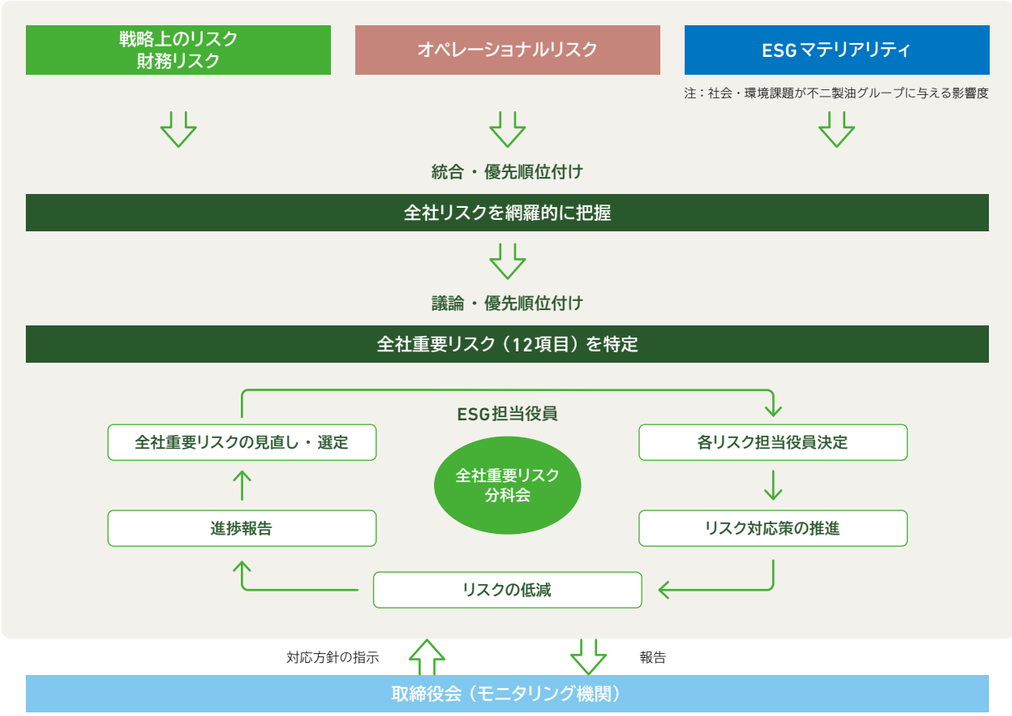
グループ各社でリスクマップを作成し各社におけるオペレーショナルリスクを特定すると同時に、経営会議にて戦略上のリスクや財務リスクを決定しています。また、ESGマテリアリティのうち「社会・環境課題が不二製油グループに与える影響度」が大きいと認識している項目と合わせリスクを網羅的に把握した上で、特に全社重要なリスクとして取締役会において決定しています。

❷ リスクの対応とモニタリング

経営会議を全社リスクマネジメント機関と位置付け、上記で決定された全社重要リスクについて、各リスクの担当役員を決定し、対応策を定めています。また、担当役員による対応策の進捗報告、および全社重要リスクの見直し・特定を実施します。これらはリスク管理を管掌するESG担当役員により管理され、定期的に取締役会へ報告を行います。取締役会はモニタリング機関として経営会議からの報告内容について確認・指示を行います。また、グループ全体への影響拡大が懸念されるリスクやエマージングリスクへの対応方針を中心に協議を行い、対応指針を経営会議に示します。

全社重要リスクの特定と対応

経営会議（全社リスクマネジメント機関）



❸ 2022年度のモニタリング結果

2022年度に決定された12項目の全社重要リスクは、各管掌役員のもと対応策を進め、個別の進捗や課題状況を全社重要リスク分科会において議論し、適宜経営会議に報告しながらリスク低減を図りました。また、各リスクの担当役員から2022年度の対応進捗状況およびその対応等について取締役会に報告し、顕在化したリスクの発生原因、対応策につきその妥当性、適時性等を確認しました。

不二製油グループの重要なリスク（2023年度版）

当社グループにおいて管理すべき重要なリスクとして以下の12項目を選定し、各リスクについては管掌役員を定めて対応計画を策定しています。また、対応状況は取締役会に報告し、モニタリングを実施する体制を構築しています。なお、将来事項に関する記述につきましては、2023年3月31日現在において入手可能な情報に基づき、当社が合理的であると判断したものです。

	リスク項目	全社重要リスク	リスク対応の方向性	担当役員 人事・法務・総務	ESG担当	CFO	CSO	CTO
1	原料相場の変動リスク	主要原料の価格変動のリスク	• 拠点間の相互補完（融通）を含めた全社レベルでの原料バランスの管理体制構築 • 原料購買・ヘッジに関する全社ポリシーに基づく適切なヘッジ取引管理				●	
2	財務・税務に関するリスク	為替・金利変動や国際的な課税のリスク	• デリバティブの活用による変動リスクヘッジの実施、グローバル・キャッシュ・マネジメントによる流動性リスク低減 • 国際税務上のリスク回避や適正な納税のための管理体制構築			●		
3	法規制やコンプライアンスに関するリスク	各国の法制度に対するコンプライアンス違反リスク	• 法務部門のグローバルな管理体制の強化 • 全社単位でのコンプライアンス管理の徹底	●				
4	グループ会社の経営リスク	経営環境の変化により事業計画と乖離するリスク 事業計画の進捗遅れによるのれんや固定資産の減損リスク 各種規制・ルールの変更により事業内容が影響を受けるリスク	• グループ横断的支援体制による事業の推進とマネジメント強化 • 海外事業会社の経営を担える人材の育成と登用 • 投資撤退基準による投資案件の管理徹底と資産効率の向上 • グループ会社所在地の規制およびルール変更の早期把握と対応 • ガバナンス体制の強化				●	
5	食品の安全性に関するリスク	重大な安全・品質上の問題による多額のコスト負担発生や顧客の信用を失うリスク	• グローバル品質管理基準の導入や安全標準の策定 • 急速なグローバル展開を技術サポートできる体制 • 違反発生時の初動対応の手順化とグローバル支援体制の整備、保険活用によるリスク低減		●			
6-1	サプライチェーンに関するリスク	主要原料（パーム、カカオ、大豆等）を確保できなくなるリスクやサプライチェーンにおいて環境・人権問題が発生するリスク	• サプライヤーや同業他社・NGOとの協調関係継続、自社プログラム推進によるサプライソースの強化 • 調達方針の制定によるサプライチェーン上での環境・人権リスクの予防・低減				●	
6-2		各国の規制、社会動向の変化により既存原料や製法の使用が制限されるリスク	• 原料油脂の多様化によるリスク分散 • 化学触媒や溶剤処理を用いない油脂・たん白加工技術の開発					●
7	災害・事故・感染症に関するリスク	自然災害、工場での事故、感染症により操業・出荷停止、サプライチェーン分断や人的・物的被害等が発生するリスク	• 自然災害発生時に備えた、グループ間の相互補完体制を組み込んだBCPの策定 • 危機発生時の対応マニュアルの整備、保険によるリスク移転 • 全社単位での危険予知活動の定着化や事故リスクの高いグループ会社における安全管理活動のさらなる強化 • 感染症の拡大に備えた、従業員の安全、事業活動の継続、サプライチェーン安定化を組み込んだ感染症BCPの策定		●			
8	情報システム／セキュリティに関するリスク	ITガバナンス・セキュリティの不全による情報漏洩や損害発生リスク	• 外部の専門家を起用した情報セキュリティ対策の強化 • 情報管理意識向上のための教育・啓蒙活動の実施			●		
9	人材の確保・育成に関するリスク	グローバル経営体制を支える人材や多様な価値観に対応したイノベーションを生み出す人材が不足するリスクや工場の稼働に必要な人員を確保できないリスク	• グローバルな人材開発・活用プログラムの整備 • DE&Iの推進やシニア人材の活用 • 各グループ会社の工場の人材確保のための環境整備	●				
10-1	ビジネスの転換／変革に関するリスク	市場環境の変化に応じたビジネスの拡大や転換ができないリスク	• 市場が求めるトレンドを的確に捉えた商品開発や事業戦略を推進できる体制構築 • 将来の事業環境変化を想定した事業ポートフォリオの見直し、生産拠点の全体最適化				●	
10-2		市場のニーズに対応した新規事業、競争力のある製品、技術の開発が滞るリスク	• グローバル・ローカルのニーズに応じた新たなコア技術と製品開発の推進 • 限られた人的資源を活かすための研究テーマの選択と集中					●
10-3		デジタル化の遅れによりグローバルなデータ共有ができず適切な経営判断を逸するリスク	• 各エリアの研究開発情報をデータ化し、共有・活用を可能とするシステムの構築 • ERPパッケージ導入によるグローバル生産管理・在庫管理・生産依頼などの実用化		●			●
11-1	環境・人権に関するリスク	環境問題への対応不備・遅れにより事業活動が制限を受けるリスク	• 自社による環境数値目標（環境ビジョン2030）の策定と遵守 • TCFDの提言に基づくシナリオ分析による気候変動への対応および情報開示の推進 • TNFDの考え方に基づく生物多様性への対応および情報開示の推進 • フードロスの削減や再利用に関する技術開発や研究の推進 • 工場から産出される副産物を有効利用、再循環する技術開発や研究の推進		●			●
11-2		人権問題への対応不備・遅れにより事業活動が制限を受けるリスク	• 国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に準拠した「不二製油グループ人権方針」（2017年策定）に基づく人権尊重の推進 • 人権デュー・ディリジェンスの実施、その結果に基づく課題解決の取り組み強化と適切な情報開示 • 当社グループ従業員を対象として、人権問題に関するさまざまな社会課題に配慮した「人権ガイドライン」の策定・推進		●			
12-1	事業関連地域のカントリーリスク	戦争や紛争等の発生および経済安全保障上の問題、政治・経済・社会的混乱等による事業活動の制限、一時的な業務停止、サプライチェーン分断リスク	• グループ本社主導によるリスクの想定、対応策の整備、事業ポートフォリオの見直し • グループ会社におけるリスクマネジメントPDCA活動の推進		●			
12-2		戦争・テロ・暴動・誘拐・ストライキ等により従業員が死傷するリスク	• グループ会社所在地の情報収集、外部コンサルタント起用、従業員への海外安全教育の強化	●				